

# 子どもの声に耳を傾け、大人も子どもも笑顔に！

ここからは、日常生活の中で、子どもの権利が大切にされた結果、みんなが笑顔になった事例を紹介します。

## 児童会館での遊び方のルールを作る

1 児童会館は、小学校が終わる時間に大勢の子どもが来るため、混雑しています。篠路児童会館では、子どもたちがジャンケンで体育室の遊びを決めていたのですが、不満の声も出ていました。



2 子どもたちの声を聞いた館長の森脇さん。募集で集まった小学生の男子4人、女子6人と一緒に子ども運営委員会をつくり、解決方法を考えることに。



3 委員会に参加した子どもたちは、遊びたい気持ちを抑えて、週2回、3ヵ月間にわたり話し合いを続けました。その結果、体育室で遊ぶ内容を時間ごとに分けることになりました。



4 事前に行ったアンケートで人気の高かった「一輪車」や「かたき（ボール遊びの一種）」の時間を多く設けるなど、委員みんなで工夫して作成した時間割を、50人以上のお友達の前で発表しました。



5 みんなからは、スケジュールが分かって体育室が使いやすくなったと大好評。篠路児童会館では、その後も、ほかの子どもから意見が出れば委員会で話し合いを行い、遊び方のルールを見直しています。



子どもの意見を聞きながら、児童会館の運営をしています

篠路児童会館 館長 森脇 知子さん

子どもたち自身が時間割を決めたことで、みんなが納得して楽しく利用するようになりました。ほかにも、意見箱を置くなど、子どもの意見をくみ上げる工夫をしています。



みんなが使いやすいような時間割を作ったよ

参加した子どもの声

おにづか あおい  
篠路小学校3年 鬼塚 葵ちゃん

大変だったのは、時間割をみんなに不公平がないようにしたところです。高学年の人の学校が終わる時間とかを考えて作りました。大好きな一輪車ができる時間が増えてうれしいです。

